

第1回 明石市環境審議会議事要旨

日 時：令和4年7月7日（木）15時～17時

場 所：明石市役所議会棟 大会議室

出席者：環境審議会地球温暖化対策推進部会 委員 9名

市出席者：環境部長、環境創造課長ほか環境創造課職員

■部会長の選任

小幡委員を地球温暖化対策推進部会長として選任

■議 事

(1) 計画改定の概要（資料1）

計画改定の趣旨や背景について事務局より説明

(2) 現行計画等の総括（資料2）

現行計画の温室効果ガス進捗状況や課題について事務局より説明

（主な意見）

■温室効果ガスの増減要因について

○電力の排出係数の変動による影響が大きいと思うので、施策の評価を考えるのであれば、電力の排出係数を固定した場合で、実際どれだけ増減しているのかを比較分析するとよい。

(3) 計画の目標（資料3）

計画の目標設定と考え方について事務局より説明

（主な意見）

■温室効果ガス排出量の削減目標について

○2050年温室効果ガス排出実質ゼロは本来のゴールではなく、1.5℃目標を達成することがゴール。そのためには、単純に2050年ゼロになればよいわけではなく、どのようなシナリオでゼロに向かうのかという過程が重要。1.5℃目標を達成するために、2050年までにどの程度の排出（累積排出量）が許容されるのかというカーボンバジェットの考え方を踏まえ、シナリオを考えていく必要がある。

○2030年以降に大きな削減を目指すシナリオは、将来世代に対して申し開きができないのではないかと。2050年ゼロに向けて直線で減らしていくことは最低限で、それよりも下を目指すところも考えていく必要がある。

○積み上げやバックキャストなど、それぞれの方法をうまく組み合わせて削減目標を検討していくとよいのではないかと。国や県の削減目標に準ずるとするのは、あくまで参考値であって、その目標を大幅に下回るということはよくないが、そのまま当てはめるといふ考え方はとりづらい。

○産業部門では、明石市内の企業が2030、2040、2050とどのくらいのスピード感で脱炭素を進めていくのか把握してはどうか。兵庫県が昨年の計画改定のタイミングで、個別の事業者にはヒアリングをしていると思うので、そういう情報を可能な範囲で入手するか、可能な範囲で市が別途ヒアリングをすることなども検討してはどうか。

■再生可能エネルギー導入目標について

- 公共施設においては率先実行していくという方向性が出ているので、明石市でもまず公共施設で導入し、市民の方も導入しましょうという方向づけを示すべき。
- 導入を進めていくうえでは、各地で問題となっているような自然環境への悪影響が生じないように、生活や環境を守るという見方も必要。

(4) 施策の方向性(緩和策と適応策) (資料4)

緩和策と適応策に関する施策の方向性について事務局より説明

(主な意見)

- 電化を進めていくという方向性があるが、エネルギーのベストミックスが一番よいと思う。ガスコジェネの導入は、レジリエンスの向上にも貢献できる面がある。
- 家庭での生ごみ減量にはコンポストなどの手法もあるが、なかなか難しい面があると思う。事業所では、例えば、お店で出た生ごみを自社の農園で堆肥化して、農産物の土づくりに使うなどの取り組みをしているところもあるが、事業所や店舗で出るような生ごみを明石の農業者たちが利用できるような循環型の取り組みができればよいと思う。
- 豊橋市では、2～3年前くらいから、生ごみを分別して、それをエネルギーにして、地産地消で循環するという取り組みをしているので、先進事例として参考になるのではないかな。
- PPAについては、兵庫県でソーラーカーポートも含め、14施設程度で今年度導入を進めているので、県事業を参考にしてはどうか。
- 脱炭素社会に移行するときに、どうしても衰退する産業やダメージを受ける業種が必ず出てくる。そういったところに対し、ただ見捨てるのではなく、雇用の受け皿であったり、きちんと対応していくことが今、世界的にも重要なテーマになりつつある。明石の産業でこういったところが本当に影響を受けるのかわからないが、考えられるのであれば、今後、検討策として考えていくとよいのではないかな。

以上